

ガーデニング部門
 フラワー・オブ・ザ・イヤー（最優秀賞）2021
 タキイ種苗株式会社 ジギタリス 「パンサー」



いい花の新基準。



受賞者：タキイ種苗(株)(京都府)
 ホームページ：<https://www.takii.co.jp>
 育成者：タキイ種苗(株)
 育成者権者：タキイ種苗(株)
 観察期間：2021年5月24日～10月12日
 審査講評：草丈が40～50cmほどのニーハイサイズの矮性種のジギタリス。花色は発色の良いピンク色でブロッチが入る。

ハイブリッドタイプで、下方からも側枝がよく上がる性質に優れ、1株でもたくさんの花を立ち上げる。春に定植し、夏にやや花数が減ったものの、秋になりまた開花数が増えており、連続開花性を確認できた。種子ができないため花もちも良い。

支柱を添えずに管理ができるので、植栽地を選ばず、個人消費以外の活用も見込める。株も乱れず他の植物とも合わせやすく様々な活用が期待できる。



▲2021/5/27 (定植後10日)

▲2021/6/24 (定植後38日)

▲2021/7/8 (定植後52日)

▲2021/8/5 (定植後80日)

▲2021/8/20 (定植後95日)

▲2021/9/14 (定植後120日)



▲2021/5/28 (定植後11日)

▲2021/6/22 (定植後36日)

▲2021/8/3 (定植後78日)

▲2021/9/28 (定植後134日)

■受賞者コメント

【開発の経緯・コンセプトなど】夏の暑さにも強く、従来のジギタリスのイメージを覆す品種特性を持ったF₁パンサーです。雄性不稔で種子が付かず、連続開花性が抜群。長い期間楽しめるのが特徴です。海外ではボーダーガーデンで採用される品目ですが、F₁パンサーは草丈が大きくなり過ぎず、日本国内の栽培にも適する品種として育成しました。

【開発の面白さ・今後の展開など】国内での栽培が難しいニッチな品目でも、育種が進んでいくと国内でも高いパフォーマンスを示す品種が出てきます。潜在的なニーズの掘上げと併行して、用途幅の拡大に向けて品種改良に注力していきます。